

春季大会より実行する7つの取り組み

① 試合球は、最初の一箱だけ（原則）支部にて一括購入

－理由－

連盟設立に向け、スポーツメーカーとの更なる連携強化や協賛拡張を目指し、三大大会（春・夏・秋）と冠大会（一年生、卒団）のみ、最初の一箱だけ中国支部にて一括購入。（受け渡しは各大会の開会式にて）※もちろん、一箱以上の受注も大歓迎

② 全大会で敢闘賞の設置

－理由－

秋季大会は三位の団体表彰のみ行い、敢闘賞は表彰しなかった。
しかし、子供にかけるお金（表彰）まで節約する必要はない。

③ 春季大会本戦は、三位決定戦を行う

－理由－

春季本戦は、日本選手権予選を地区大会制としないため、シード権の順位枠を決める必要がある。

④ 日本選手権予選も、三位決定戦を行う

－理由－

この大会の敗者が「西日本予選に出場できる」というルールで運営するのであれば、既に他の大会で整備されている「シード権獲得」という副賞を、この大会にも採用しないと整合性が取れない。

また、U15 宮崎大会の出場がなくなった以上、西日本選手権出場ブランド価値は必然的に上がる。
よって、日本選手権予選の準優勝と三位に西日本予選のシード権を与え、両順位にエントリー資格がないチームが獲得した場合（同年度に全国出場するチーム）は、四位まで権利を繰り下げ、4位以下が権利を獲得する場合は、最も直近試合で各上位チームに敗退したチームが権利を獲得する。

【例：5位と6位が権利獲得の場合】

5位 → 最も直近試合で「優勝」チームに負けたチーム

6位 → 最も直近試合で「準優勝」チームに負けたチーム

⑤ 三大大会の閉会式は、入賞4チーム全員参加で行う。（但し、秋季は除く）

－理由－

三大大会の「格」をこれまで以上に高め、この大会に参加する意味を確立してゆく。
※大会最終日は最大でも2試合しかない（秋季は除く）ため、決して無理難題な話ではない。
（全国に繋がる最後の表彰くらい、たくさんの人たちで称えてあげよう）

⑥ 野球大会の抽選会は「大人が引くのではなく選手」に

－理由－

野球大会は、選手たちが今までの努力の成果を発揮する夢の舞台。
その運命くらいは、せめて選手たちに決めさせてあげたい。

本来ならば、全大会、選手たちに引かせてあげるのがベストであるが、それを実現するには、各大会の開会式前や閉会式後に行うなど、何もない時でも来場する必要があり、各チームの協力と賛同が絶対条件である。

この決断を、今、一気に推し進めて、せっかくの試みが消えてしまうことだけは避けたいので、先ずはこの春季大会の閉会式後に「GIANTS カップ広島予選」と「日本選手権予選」の2大会の抽選から試行してみる。

更に、対戦相手が決まった直後に、各チームの代表選手全員を対象に、神宮予選に向けた意気込みと熱意をインタビュー撮影し、中国支部の公式 YouTube にアップロードし、今まで以上に神宮予選開催までの高揚感と戦闘士気を高める。

－私見－

現在でも、ほぼ何もない日に各チームはもちろん、支部役員までも高い交通費と貴重な時間を使って大人たちが集まり、抽選を行っている。

同じ労力、同じお金を使うなら「そこ」にあまりお金を掛けず、各チームの代表選手たちが球場に集まり、決勝戦などの試合を観戦するなど、自分たちのチームに足りないものを勉強させることも、各チームの子どもたちはもちろん、中国支部のレベルを上げるためにもよっぽど費用対効果がある。

私が現役の親だったら、我が子が出場する野球大会の抽選に赴くことを無駄足だとは思わない。
何もない日に各チームの役員が出席するのが弊害なら、その年の保護者役員に送迎を任せても構わないと思う。

⑦ 中国連盟化実現に向けての「支部スローガン」の設定（組織目標）

－理由－

2019年の中国支部は、もう一度「子ども主体」という原点に立ち返るべく、

「全てのチカラは “子どもたち” のために！」

というスローガンを掲げ、全チーム一丸となって、中国支部の選手たちを支える。